



(中条・新発田)

塔の基礎工事によつて破壊  
る。発掘範囲は、送電線鉄  
柱と杭列、掘立柱とも考えられ  
る。遺跡は、紫雲寺潟  
(近世までは蒲原平野の大湿  
原の代表的沼潟の一つであつ  
た) の内陸側に面した湖岸  
に位置していたと考えられ  
る。

## 新潟・小島西遺跡

おじまにし

- 1 所在地 新潟県北蒲原郡加治川村
- 2 調査期間 一九八三年(昭58)一二月
- 3 発掘機関 加治川村教育委員会
- 4 調査担当者 川上貞雄
- 5 遺跡の種類 集落跡か
- 6 遺跡の年代 一三世紀～一四世紀
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

小島西遺跡は、新潟県北蒲原郡の中央部を流れる加治川の右岸に位置し、柳形山脈と日本海第一砂丘(最も内陸に位置するもの)との

ほぼ中間にある遺跡で、現

される二〇m四方のみにとどまつた。調査の結果は、北側にはまったく遺物、遺構等は検出されず、遺跡全体の北端部に当つた感じであつた。出土遺物のうち多くは木製品類で、この大数は南西端に集中した。遺構と言えるものはごく限られたもので、井戸、溝状遺構と杭列、掘立柱とも考えられるピットと遺物残欠以外は、天然と考へられる大小数カ所の窪み等だけである。木簡は、廃棄または流入した状態で検出されたもので、杉あるいは檜の柵目板で、下方を両端からそいで尖らせた形を有する。

## 8 木簡の釈文・内容

(1) 「(符籙)□□」

### 9 関係文献

加治川村教育委員会『小島西遺跡』(一九八四年)

(伊藤 敦)

175×40×4 051

